投るといへる哉、心得ぬことなり、湯にて茶筌をとおす事なり、

〔茶道要録上主法〕釜之事同水遣具

一柄杓之事形アリ、〇中略風爐ノ時、釜ノ上ニ杓ヲ置ヤウ三品ノ傳アリ、爐ノ時ハ、杓ヲ釜ノ口ヘ掛テ、内ヘ合ヲ入ル事本意也ト云共、湯多シテ合ノ浸ル程ナレバ、釜ノ縁ニ合ヲ掛置也、合湯ノ沸ニ付テ杓動ク故ニ、如此湯少シク、又ハ縁高シテ、釜湯杓ニ不障、則合ヲ釜ノ内ヘ入置ベシ、

〔貞要集三〕蓋置之事

一五德の蓋置は、釣釜の時、五德の爪を上になしてひさくを掛ル、又五德居の時は、輪を上にして蓋を置也、穂屋の蓋置會釋有之、柄杓を掛ル、口傳

〔槐記續編〕享保十六年十月廿三日、參候、此日三人唐子ノ御蓋置出テアリ、茶ヲタツベキノ由仰〇近衛家熙ニテ立ル、三人唐子ノアシライハ、セイ高キ人形ノ方ヲ前ノ方ヘシテヲクガ習ナリ、ナゼナレバ、蓋ノカタブキガ客ノ方ノサガルヤウニト云コトナリ、蓋ノ客ノ方ガサガレバ、ウラガミエヌ故ナリ、何ニテモ裏ヲ見スルヲ嫌フナリト仰ラル、

〔茶道要録上主法〕茶盛之事

一不洗絹之事、〇中略隅ト隅ヲ取テ四ツニ折、常用之、眞ト云時ハ、横ニ中ヨリ折、又竪ニ折、四角ニシテ、又横二ツニ折、竪三ツニ折テ用ユ、是ハ名物ノ茶盛、同盆天目ノ臺ヲ拭時ニ用、茶桶ノ上ニ結テ置事有、横二ツニ折、其隅ト隅ヲ取テ結ナリ、此外ニ色々品アリト云共甚不用、茶盛ヲバ先蓋ヲ拭ヒ、茶盛ヲモ拭フ、棗ハ蓋ノ上バカリヲ拭ベシ、茶桶モ同ジ、風爐ノ小板、水壺ノ蓋、臺子袋棚、各茶巾ヲ置所ヲ必ズ拭ベシ、水壺陶カ鑵ノ時ハ、蓋濡ル故不可拭、茶主常ニ腰ニ帶ス、末流ニハ右ニ帶ス不用之、必ズ左ニ可帶也、茶盌ニ敷テ出シ、三人目ノ客必ズハヅストト云モ末説ナリ、熱湯ヲ厭フ爲ノ帛ナラバ、三人ニ不可限、總ジテ利休ハ帛ヲ客前ヘ不出ナリ、最可從之、